



合計特殊出生率

出生率にはいくつか種類があります。一番単純な出生率は普通出生率と呼ばれるもので、1年間の出生数を（日本の場合は国勢調査実施日である）10月1日時点での人口総数（男女計、全年齢）で割った率で、通常、人口1000人当たりの率「‰」（パーミル）で表示されます。この方法は計算が簡単で、しかも分かりやすい点で優れています。しかし、男性や年少者、高齢者など、出生に直接影響しない人たちが含まれている点や年齢構成比を考慮していないため、時系列比較や国際比較において男女年齢構成が異なる人口を比較することが出来ません。

そのような普通出生率の短所を取り除いた他の出生率もいくつかあります。その中で、現在良く使われている指標が合計特殊出生率です。合計特殊出生率は、以下の2種類があります。

<期間合計特殊出生率>

ある1年間の15～49歳の女性の各年齢別出生率を合計したもの。「その年の出生率」。

<コーホート合計特殊出生率>

ある世代（同一年生まれ（コーホート））の女性の15～49歳の時の各年齢別出生率を過去から積み上げたもの。「その世代の出生率」。

実際に「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」はコーホート合計特殊出生率ですが、この値はその世代が50歳に到達するまで得られないため、それに相当するものとして期間合計特殊出生率が一般に用いられています。

期間合計特殊出生率の計算は非常に簡単です。まず各年齢の日本人女性人口、（母親の年齢別）出生数を用意します（①及び②）。次に、②÷①を行い、各年齢の出生率を計算します（③）。そして、③の出生率をすべて足しあげれば、合計特殊出生率になります。

表中、分数で計算している網掛け部分は本来書く必要のないものですが、説明のためにあえて記載しました。一番下の欄の丸で囲っている部分を見てください。「1.3933 / 1」とあります。ここで、分子は「出生数」、分母は「女性人口」です。その分母が「1」、分子が「1.3933」ということは、つまり（15～49歳の）女性一人当たりが生む子供の数が1.3933人ということです。

平成23年 合計特殊出生率（全国）

年 齢	女性人口（日本人）①	出生数 ②	$\frac{\text{出生数 ②}}{\text{女性人口 ①}}$	$\frac{\text{出生数}}{\text{女性人口}}$	出生率 ③
15	574,000	240	$\frac{240}{574,000}$	$\frac{0.0004}{1}$	0.0004
16	590,000	762	$\frac{762}{590,000}$	$\frac{0.0013}{1}$	0.0013
17	592,000	1,902	$\frac{1,902}{592,000}$	$\frac{0.0032}{1}$	0.0032
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
48	782,000	36	$\frac{36}{782,000}$	$\frac{0.0000}{1}$	0.0000
49	759,000	63	$\frac{63}{759,000}$	$\frac{0.0001}{1}$	0.0001
15～49歳計	26,337,000	1,050,803		$\frac{1.3933}{1}$	1.3933

注：出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。
 出典：女性人口「総務省 人口推計」、出生数「厚生労働省 人口動態調査」